

第 27 回（就労支援）分科会報告書

1. 開催日時：平成 8 月 26 日（水） 13：30 ～ 15：00
2. 開催場所：八女市社会福祉協議会 3F 大会議室
3. 参加者（所属のみ）：デュナミス、西日本短期大学、九州ダンボール、さんふらわあ、八女あかり、サングリーン、わ～よか、のぞえ風と虹、蓮の実団地、陽だまり工房、ひまわり、ミライプラス、赤坂園、若楠園、プラムの小径、八女市、広川町、リーベル
4. 実施内容

○講演：「働く当事者の声」

講師：（株）九州サプライ 山下一仁 氏

障がい者支援センター ミライプラス 岡浩記 氏

障がい者就業・生活支援センター デュナミス 井口雄二 氏

○本人の生い立ちについてスライドショーを用いて紹介。また、（株）九州サプライ土屋課長ヘインタビューをした時の映像を流す。

○学校卒業後から就職に至るまでの話を対談形式で行う。

- ・病院で障害があるとの診断を聞いた時は、びっくりした。親は心配だったと思う。昔から人付き合いは上手ではなかった。将来の事を考えると頑張ろうという気持ちにはなった。

- ・ミライプラス利用当初は、作業に対しては意欲的であったが、その反面細かい作業は苦手で何度も同じ質問をする様子があった。作業を覚えるまで時間はかかっていたが、一度覚えるとその後は問題なく出来ていた。本人の希望もあり、ミライプラスを利用し始めて約 1 ヶ月後には施設外実習を始めた。本人の一番の課題はコミュニケーション面であった。何度も同じことを聞いていた為、メモを活用する事を伝えた。九州サプライに就職する前に別の企業で就職を前提として訓練を行っていたが、採用には至らなかった。九州サプライの求人はハローワークからの紹介。事前にハローワークに食品関係の仕事を希望する方がいると伝えていた。

- ・九州サプライを受けようと思った理由は勧められたから。事前に見学に行った時の職場の人の笑顔が印象に残っていた。

- ・企業に予め伝えた本人の情報とし



ては、元気よく何事にもまじめに取り組まれるがその反面、コミュニケーション面での支援が必要なところがあるということ。

・定着支援はミライプラスとデュナミスで役割分担しながら企業訪問をしている。

・職場の人には良くしてもらっている。職場の方や関係機関が支えてくれているので、今後も体を壊さないように頑張りたい。自分にとって働くとは親を養っていくこと、親が亡くなった後は自分で生活をしていくためにしなければならないこと。



・どれだけ多くの事に気付けるか、気づきの多さが、良い支援に繋がると思う。

・ミライプラス利用時はいくつか課題があったが、それが今活かされていると思う。

・企業の方からは報連相がしっかりと出来ている、とても動いてくれるので戦力となっているとの評価を頂いた。自信過剰にならないように気をつけながら、さらなるステップアップを目指して今後も頑張ってもらいたい。

○グループワーク

「講演を聴いて参考になった点」と「山下さんへのメッセージ」についてグループワークを実施。